

展示構成から考える日本史Bの授業  
～授業における史資料の使い方私案～  
埼玉県立熊谷西高校 高橋朝彦

1 実施学年及び教科・領域

高校3年 日本史B 近代

2 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名

「近代国家の成立 明治維新と富国強兵 文明開化」

※教科書 『改訂版 詳説日本史B』(山川出版社) p 269～272

(2) ねらい

① 学習指導要領との関連

日本史B 2内容

(4) 近代日本の形成と世界

近代国家の形成と社会や文化の特色について、国際環境と関連付けて考察させる。

ア 明治維新と立憲体制の成立

開国と幕府の滅亡、**文明開化**など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降の我が国の**近代化の推進過程**について考察させる。

3 内容の取扱い

ウ) 年表、地図その他の資料を一層活用させるとともに、**地域の文化遺産、博物館や資料館の調査・見学などを取り入れるよう工夫すること。** エ) 文化に関する指導に当たっては、各時代の文化とそれを生み出した時代的背景との関連、外来の文化などとの接触や交流による文化の変容や発展の過程などに着目させ、我が国の伝統と文化の特色とそれを形成した様々な要因を総合的に考察させるようにすること。**衣食住や風習・信仰などの生活文化についても、時代の特色や地域社会の様子などと関連付け、民俗学や考古学などの成果の活用を図りながら扱うようにすること。** オ) 地域社会の歴史と文化について扱うようにするとともに、祖先が地域社会の向上と文化の創造や発展に努力したことを具体的に理解させ、それらを尊重する態度を育てるようにすること。

② 第18期日本学術会議 歴史学研究連絡委員会報告との関連 (2000/12/14)

5、歴史教育との関連

歴史教育は、科学的な学術研究の成果にもとづくことが必要である。教科書などの記述は、その役割の重要性にかんがみて、とりわけ厳密な実証が望まれる。しかし、生徒・学生の関心を刺激するためには、新発見・新見解の紹介が不可欠であり、そのため、定説化されていない事例については、そのことに言及した記述、さらには定説とされているものへの批判を含め

て多面的な視点を加えることの配慮が必要である。

③ 単元の目標

近代明治初期に起こった「文明開化」に対する認識を深めるために、生徒自身が政府側と民衆側の史料の読みときを通してその差を探求し、「文明」に対する現在の私たちとの認識の差異に気づき、歴博の第5展示室の「文明開化」展示を考察する。また、発展的課題設定として長期休業期間などにおいて、地域の博物館展示等から文明開化に対する展示方法に興味・関心を持たせ、展示されている史料とその展示方法から歴史を構成することができる。

(3) 博物館との関連

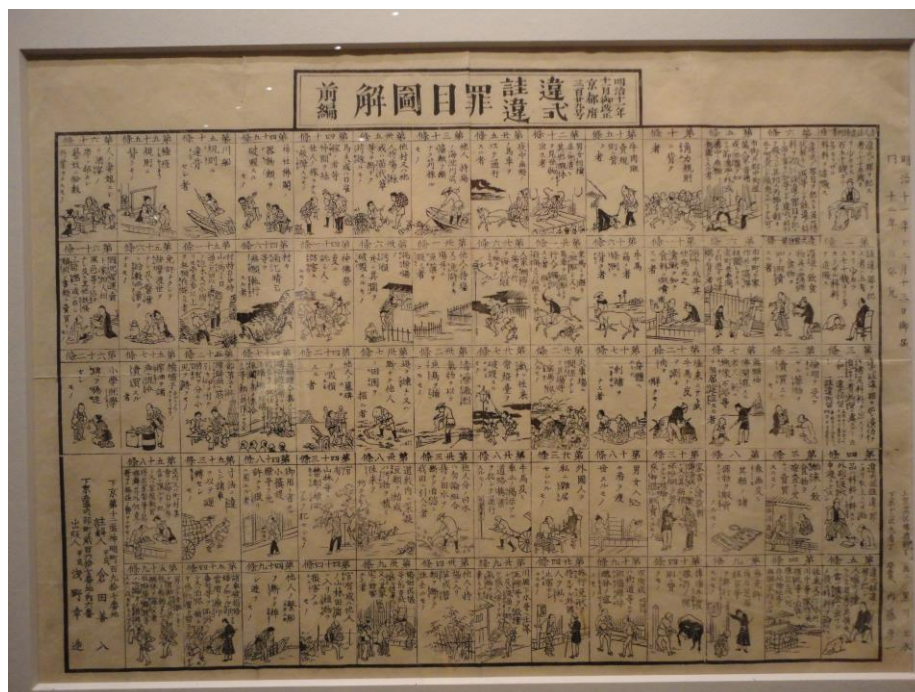
① 活用方法

- ・史料A・Bを提示(プロジェクターや限定されたWEB上、及びA3版で拡大コピーしたもの)し、グループ学習を通じて読みとさせる。
- ・展示室パンフレット上に史料A・Bが展示されている場所を考察する。

② 活用の史料

A 第5展示室(近代) 展示史料

「違式註違罪目図解 前編」(明治十二年) 政府側史料として



B 第5展示室(近代) 展示史料  
「開化因循興廢鏡」 民衆側史料として



C 埼玉県立文書館 行政文書(重要文化財)  
地元の関連する地域史料  
「断髮奨励ニ付埼玉県布達」 明治六年  
「婦人断髮禁止ニ付埼玉県布達」 明治七年  
「混浴・裸体公行禁止ノ論説」 明治五年

D 第5展示室(近代)パンフレット

(4) 指導観

1つのテーマに対する異なる立場・地域から記された史料の読みときを通して、立場により認識の違いが存在することを理解し、史料の解説文の作成や展示構成の考察を通してテーマの理解の定着と地域の歴史との関係性に興味を持たせ、博物館の展示構成について関心を持たせる。

3 指導計画 (9時間扱い)

第9章 近代国家の成立 2 明治維新と富国強兵

- ・ 戊辰戦争と新政府の発足…… 1時間
- ・ 廃藩置県 …… 1時間
- ・ 四民平等 …… 1時間
- ・ 地租改正 …… 1時間
- ・ 殖産興業 …… 1時間
- ・ 文明開化 ……本時 2時間
- ・ 明治初期の対外関係 …… 1時間
- ・ 新政府への反抗 …… 1時間

#### 4 授業実践(50分授業で設定)

##### 1時目

- ① プロジェクター等で史料を提示しながら、本時の課題を示す。  
課題「提示された史料を読み解き、文明開化の展示を考えよう」
- ② 5人一組のグループに、A3でプリントした史料A～C3点を配布
- ③ 15～20分で読み解き……スマホ等を利用して  
読み解き方法は、「5W1H」を基本とすることのみ通知し、後は自由にグループ内で調べる。
- ④ 20分で史料3点の解説文をグループで作成  
解説文は、約150字程度とする。  
実際は、史料を手分けして取り組んでいるグループが多かった。
- ⑤ 展示コーナー名を考える  
解説文を考えながら並行して行う  
展示室パンフレット上に史料A・Bの展示されている場所を考える  
その際、歴博の近代展示室の風景を提示する
- ⑥ 10分で来館者を想定した展示ワークシート用の「問い」も作成

##### 2時目

- ⑦ 20分で展示構成を考える……提示した史料以外を活用することも可とする
- ⑧ 1グループ3分でプレゼン(8班だと24分かかる)
- ⑨ ラスト5分で各グループごとに評価
  - ・史料の読み解きはできていたか
  - ・展示構成に無理はないか
  - ・解説文は適当であったか
  - ・ワークシート用の「問い」にオリジナリティーはあったか
- ⑩ 長期休業中に地域の博物館での文明開化に関する展示のレポートを課す。

#### 5 成果と課題

##### (1) 成果

- ① 学習者は、史料に対して拒否反応を示すことなく興味関心を持ち、積極的に学習に取り組んでいた。史料(文書などのくずし字史料も含む)は、充分日本史の教材となることが確認できた。
- ② 史料の読み解きから歴史理解を深めることができることが確認できた。また、発展として解説文の作成から展示構成を考えるきっかけとなった。
- ③ 博物館へのアクセスに対して距離感を感じている生徒たちに、博物館への興味関心を持たせることができた。

##### (2) 課題

- ① 実際は、史料の読み解き・解説文作成で1時間かかってしまい、展示構成を考えさせるところまでできなかった。また、コロナ禍で博物館等展示施設が休館となっているところもあり、発展課題を課すことができなかった。



- ② 発表の段階で同じテーマを8班で行うと、史料調査の出典がほぼ同じになってしまい後半の発表に飽きがきてしまう。オープンエンドの課題設定を考えるべきであった。
- ③ コロナ禍の中、博物館展示とのアクセスをどうするのか。
- ④ 読み解き史料を教員が選択して提示するので、授業テーマに対しての教員側のバイアスが掛かってしまう恐れがある。
- ⑤ 評価をどのようにするのか。
- ⑥ 著作権等の関係で提示する史料を教員採択でWEB公開できるのか。



グループ活動の様子

## 6 まとめ

コロナ禍で研究員としての活動が限定されてしまい、予定していた実践活動ができなかった。しかし、その中でも博物館を活用した教育活動の可能性について様々な知見を得ることができた。特に、展示構成を考える実践の発展形態として、ふと生徒たちは「今」をどう意識し生活しているのかに興味を持ち、「今を展示すると」を実践してみた。この実践は、「今(現実)」と「過去(歴史)」を繋げる可能性を感じさせるものであった。この実践報告は、次回の博学連携の活動で報告できればと思っている。

最後にコロナ禍で博物館のあり方が問われている中、歴博の博学連携研究の担当者・研究員及び、国立歴史民俗博物館の関係者の皆様方には感謝を申し上げたい。

## 7 参考文献等

「歴史資料の検証とその社会的活用について」(第18期日本学術会議 歴史学研究連絡委員会報告) 2000

百瀬響『文明開化 失われた風俗』(歴史文化ライブラリー261 吉川弘文館) 2008

春田国男「違式註違条令の研究」(『別府大学短期大学部紀要』 第13号) 1994

『歴博 特集歴史展示』(No. 118 国立歴史民俗博物館) 2003